

令和6年5月27日 区長記者会見

【司会】

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和6年5月27日、北区長記者会見を開始いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私、広報課長の窪田でございます。よろしくお願いいたします。本日は、やまだ区長のほか、政策経営部長の藤野と企画課長の栗生、財政課長の入江、しごと連携担当課長の新庄が出席しております。それでは、早速ですが、やまだ区長、お願いします。

【やまだ区長】

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、5月の定例記者会見にお集まりをいただきありがとうございます。まず1枚目の写真をご覧くださいと思います。

今回、記者会見のトップページにさせていただきましたのは、先日5月17日に国の重要文化財指定を受けることが決定をいたしました、北区の名所であります旧岩淵水門、赤水門の写真です。17日の当日、発表を受けて、地域の方々、また荒川下流河川事務所の皆さん、区の職員みんなで集まりまして、決定のお祝いをいたしました。その時の画像であります。

ぜひ、この赤水門を北区の名所の一つとして観光にも活用していきたいと思っております。

また、今年は荒川放水路、100年という節目の年でもありますので、この記念すべき年と重要文化財が認定される年が一緒になったということは、本当に北区として、また地域の方々の喜びでもあります。ぜひとも赤水門、旧岩淵水門を多くの方々に知っていただけるよう、また訪れていただけるよう、区としても取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、順次、ご説明の方、させていただきますと思います。

まず初めに、「子どもの幸せ No.1」であります。

今回の第2回定例会の補正予算を受けまして、今日は二点についてご説明をさせていただきますと思います。

一点目は、不登校対策であります。これまで区といたしまして、校内フリースクール、校内の別室、また校外の別室ということで、当初予算も含めて設置をしていく、設置をしてきた経緯がございます。改めて、今回、補正予算を活用いたしまして、不登校のオンラインでの居場所づくりに取り組んでいきたいと思っております。

東京都が取り組んでいますバーチャル・ラーニング・プラットフォームの授業を活用いたしまして、区としても区内の小・中学生の居場所として活用していきたいというふうに考えております。

これまで学校の中、学校の外、児童館を活用した校外別室、そして、外に出ることが難しいよ、

というお子さんたちにとっても、オンラインであれば少し覗いてみようかな。という、そのきっかけになったらいいと思っております。

特に今回、北区として、区独自として書かせていただいておりますが、バーチャルプランニングプラットフォーム授業の中でも指導員を配置していくところが今回、区として工夫をしたところでもあります。

場の提供があっても、中に入ってきた子供たちが、ただ佇むだけにならないように、いかにコミュニケーションをバーチャルの中でも、していくことができるかということがポイントになってくると思います。プラットフォームの中では、勉強する教室部分や、それ以外の子供たちが集まるスペースなどもありますので、学習とともに、声をかけていく指導員の配置もプラットフォーム内で行っていきたいというふうに思っております。

この実施は、10月実施を目指して、今、準備をしているところでもあります。

続きまして、二点目がHPVワクチン男性の接種開始であります。

今回、小学校6年生から高校1年生の男子を対象とした、接種3回分の自己負担なしで提供していきます。7月1日開始を目指し、準備を整えているところでもあります。

特に区内では対象者約6000人弱の児童・生徒が対象となりますが、特に高校1年生相当年齢の男性につきましては、接種期間が短いので、案内ハガキを個別に送付するなど、周知にも気を付けていきたいというふうに思っております。

続きまして、「つながる医療・福祉 No.1」についてです。

こちらは一点です。6月は食育月間です。これまで、区民の方々の区民意識・意向調査を平成30年なんですけども、行った際に、野菜の摂取目標量である350グラムをおおむね摂っているよ、という調査で答えられた方は、約2.6%。わずか2.6%という結果がありまして、それを受けて、令和2年から北区では北区マイベジプロジェクトを立ち上げて、毎年1月に食育フェアを実施しておりました。

今回初めて、民間の事業者、企業とのコラボレーションで実施をすることになりました。イトーヨーカドー赤羽店の皆様のご協力をいただき、店内での実施となります。

5月の28日から6月の2日まで。特に6月1日、2日の土日につきましては、このチラシにも掲載をしておりますが、食育講座を各企業の方々、講師に来ていただきまして実施をいたします。

ヤマザキパン、味の素、セブン&アイ、キューピーさんやマルコメ、そして、北区の楽しい食の推進委員の皆さん、それぞれのご協力をいただきまして、食育講座を開催していきます。当日受付となりますので、ぜひ多くの区民の方々にお越しいただきたいなというふうに思っております。

一番の、お子さんたちが喜んでもらえるんじゃないかなというのが、しぶさわくんとマルコメくんとキューピーちゃんが、3つのキャラクターが、当日、夢の競演をいたします。なかなか、この3人が揃うことってないと思いますので、ぜひ、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭の皆さんも、こういったことをきっかけに野菜を摂ることを考えていただく機会になったらいいなと思っています。ぜひお待ちしております。

続きまして、「経済と環境の好循環を地域力で創出」についてであります。

まず一点目が、芥川龍之介記念館の開設に向けて着々と準備をしているところです。今回、2つご報告をいたします。

一つは、日本近代文学館との覚書の締結をいたしました。これは、今回の記念館のテーマとなる、「体感する (feel)」ということをテーマに、より、訪れる方々に、当時の芥川龍之介が活動していた様子を感じていただけるような書斎をリアルに再現していきたいということを考えておりまして、多くの書斎資料を所蔵している日本近代文学館の皆様と協力をしていただく締結をさせていただくこととなりました。

様々な資料をお借りし、書斎の再現に使わせていただきたいなというふうに思っています。先日、覚書の締結に伺ってまいりました。一つずつ、ご指導いただきながら、芥川ファンの方だけではなく、より多くの方々に芥川龍之介がここの場所でまさに活動していた、作品を作っていたということが伝わるような、そういった記念館を目指して作っていききたいというふうに思っています。

二点目が、また、開設に向けてクラウドファンディングを行っています。

4月から実施をしておりますが、これまで総務省の方に申請しておりました、返礼品が認可されましたので、改めて体験型の返礼品を皆様にお伝えをさせていただき、さらなるご協力をお願いしていきたいなと思っております。

今回、体験型の返礼品は、大きく6種類であります。3万円コースが3種類、10万円コースが2種類、そして100万円ご寄付のコースが1種類と、計6種類の体験型返礼品をご用意させていただいた次第です。

河童忌イベントのご招待や、また記念館着工式へのご招待、そして、貸切で記念館などを学芸員が、ご説明をしながらご案内するなど、また特別な直筆資料の閲覧なども可能となる。そういった返礼品をご用意しております。ぜひとも多くの方々にご覧いただきまして、芥川龍之介ファンの皆さん、ご応募いただけたら嬉しいなと思っております。

また、第2弾、第3弾と引き続き、新たな返礼品、芥川グッズも含めて、2弾、3弾といろいろ工夫をしていききたいというふうに思っておりますので、ぜひご注目いただきたいなと思っています。よろしく願いいたします。

そして、経済の方で二点であります。

二つ目が、政策提案協働事業の募集開始をしております。7月の1日から1か月間、区民の方々のボランティア団体、NPOの方々に、区内の課題となるものについて、ともに協働で取り組むことで課題解決につながる、そんな事業をご提案いただき、実施をしていきたいというふうに思っております。

最長3年間まで事業実施で、年間300万円までの補助、3年間ご活用いただくと、最高で650万円まで補助金として、ご活用いただけるような募集をしております。

応募テーマは自由です。区内の課題と感じている内容について、どのように解決していくかそんな形で事業提案を受けたいというふうに思っております。私たち区役所だけでは気づかないような課題が、区民の方々のご活動の中で、そういった視点をぜひご応募いただき、一緒に課題解決に向けて取り組んでいけたらなというふうに思っております。

書類審査の後にプレゼンを行い、約2団体を選定していけたらなというふうに思っています。多くの方々、多くの団体の皆様のご応募をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

そして、環境の点で二点ございます。

熱中症対策の本格的な実施であります。去年は、涼みどころを10カ所、区内に設けました。7月1日からでしたが、今年は、夏日がもう出ておりますので、時期を前倒しをいたしまして、6月1日からクーリングシェルターを開設しております。順次開設をしていく形です。今回はですねクーリングシェルターは区内約40カ所を予定しております。内2カ所が民間事業者のご協力をいただき、シェルターとしての設置をしております。

また、涼みどころとして1カ所、商店街のご協力をいただき、集える場所を、涼める場所を設けていきたいというふうに思っております。

このクーリングシェルター、熱中症特別警戒アラート発令時に、しっかりとこう、区民の方々の受け入れ数を確保し、公表していくような形で受け入れていきたいなというふうに思っております。

もう一つ、この暑さ対策として、特に高齢者の方々の暑さ対策を充実したいということで、クールスカーフを区内の高齢者の方々に、お配りをしていきたいというふうに思っています。

約9,700個を高齢者あんしんセンターをはじめ、生きがい活動センター「きらりあ北」ですね。また、老人いこいの家などを通じて、高齢者の方々に配布をしていく予定であります。社会福祉協議会の協力を得て、高齢者の方々にあった暑さ対策、また、併せて配布時にクーリングシェルターのチラシのご案内もし、何か、暑いな、というときには、とにかく区内の施設に入っていて、涼んでもらうということをしかりと宣伝していきたいというふうに思っております。以上です。

そして最後に、渋沢栄一カウントダウンプロジェクト関連であります。

「経済と環境の好循環を地域力で創出」のうちの渋沢関連であります。いよいよ7月3日に迫ってきております。公民連携で多くの方々と連携しながら、少しでも多くの方々に北区ゆかりの偉人、渋沢栄一翁が一万円札になることを知っていただき、その功績を知っていただき、北区を発信していきたいなと思っております。

いよいよですね、渋沢版のクラウドファンディングが6月3日から受け付けを開始いたします。今回、体験型の返礼品を二つご用意をさせていただきました。旧渋沢庭園特別見学ツアー、そして国立印刷局東京工場特別見学ツアーの二つであります。どちらも寄付額10万円で、どちらも15名限定で開催をいたします。この見学ツアーの予定は今のところ11月に実施する予定であります。

今回、渋沢財団、また印刷局東京工場の皆様のご協力をいただき、こういったツアーが実現をいたします。ぜひとも渋沢栄一翁クラウドファンディング、皆様のご応募お待ちしております。よろしくお願いいたします。

そしてもう一つ、渋沢栄一特別講演会を実施いたします。これは新紙幣発行後の7月18日2時から基調講演と講談、この2弾で実施をしてみたいです。こういった形です。

渋沢栄一翁の著書も出されていますフランス文学者である鹿島茂先生のご講演、そしてその後は渋沢栄一翁の講談を多くされている講談師である神田京子さんの講談を楽しんでいただければと思います。

もう、北区のホームページにはご案内をさせていただいております、ホームページやハガキから受付を開始しておりますので、ぜひ多くの皆さん、見に来ていただけたらと思います。6月19日が応募締切であります。280名限定です。どうぞよろしくお願いいたします。

そしてもう一つが、旅行関係で有名な「るるぶ」、「るるぶ東京」の中に北区が掲載されます。今日、配付資料といたしましても、特別編集版をお配りをさせていただいておりますが、「るるぶ東京」の中に掲載されます内容を出しまして、特別版として編集したこのチラシを区内、また区外も含めて配布をしていきたいというふうに思っております。

全体で1万部弱、観光資源の場所でしたり、また区有施設でしたり、外国人の方々が来られる場所でしたり、あと、渋沢関連と一緒に活動させていただいている友好都市の方々の東京事務所などにも置かせていただくなど、広くこの「るるぶ東京」お札が生まれるまち北区バージョンが、多くの方に見ていただけるような工夫を頑張っていきたいなというふうに思っています。

そして渋沢関連、最後となります。

6月の22日、23日に記念イベントといたしまして、プロジェクションマッピングを実施いたします。

このプロジェクションマッピングの経緯なのですが、区民企画アイデア募集を昨年行いました。この中でベストアイデア賞に選ばれたものであります。今回のその実現になりました。

もう一つ、渋沢翁が教育や若者育成にも力を注いでいたということから、区としても若手のデザイナーの方の活躍を応援するという意味で、若手デザイナーの方に今回のプロジェクションマッピングの内容を作っていただきました。

今日ですね、デモ版の映像をご用意しておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。6月22日、23日の土曜日、日曜日 19時15分から、30分ごとに3回に分けて実施をいたします。

また、当日は、紫陽花のライトアップ。飛鳥の小径、紫陽花のライトアップ。それと、飛鳥山おみやげ館の前でミニビアガーデンを実施します。併せてご利用いただけたらと思います。

それでは、「渋沢翁の晩餐会」映像、プロジェクションマッピングのデモ版をご覧いただきたいと思います。お願いします。

～動画が流れる～

飛鳥山公園 青淵文庫前で実施いたします。ぜひ多くの方に見に来ていただけたらなと思います。よろしく願いいたします。

以上で今月の記者会見の内容になります。ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。ご質問の際には、挙手のうえ、職員が持参するマイクを使ってご発言をお願いいたします。ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【質問者 時事通信社】

時事通信社のシノダと申します。一昨日の土曜から今日の早朝にかけて、都知事選で小池百合子、現職の小池百合子氏、立憲民主党の蓮舫さんが、都知事選への出馬の意向を固めたという報道が相次いで、流れたんですけれども、これについてやまだ区長の受け止めをお聞かせください。

【やまだ区長】

もしよろしければ、今日の記者会見の内容のご質疑を受けた後に、その他の部分でお答えできればと思いますが、その順番でもいいですか。すいません、まず内容について。無ければ、そのままお答えしますね。すいません。

【司会】

では、本日の記者会見について、何かご質問ある方、いらっしゃいますでしょうか。

【やまだ区長】

はい、お願いします。

【質問者 都政新報】

すいません。都政新報社のドイと申します。政策提案協働事業についてなんですが、これまでも区民提案制度ですとか、職員提案制度をやられてきたと思うんですけど、改めて今回の政策提案協働事業をやる理由といいますか、背景というところと、あと年間 300 万円の補助の根拠といいますか、もしあれば教えてください。

【やまだ区長】

はい。政策提案協働事業につきまして、これまでも実は、実施をできております。改めて、定例記者会見を毎月やらせていただくことになりましたので、広くご応募いただきたいという思いで、記者会見の項目のひとつとして入れさせていただきました。また、これまでも補助内容につきましては 300 万、この金額で提示をまいりました。活動していく上での根拠。そうですね、これまでの設置としては、所管の方でいいですか。

【政策経営部長】

この事業、平成 19 年に協働の活動をするための原資となる基金を創設しまして、それ以後この事業をずっと推進してきているものです。当初の設定した金額から多少上限額が上がってきているんですけども、大体、もう 10 年以上やってきている中で、今の 650 万という額が大体 3 年間の活動をする中では、ある意味適切といいますか、各事業者が活動する上でも一定程度の活動ができる範囲の金額ということで、今この額になっているということです。何か特別に積み上げをしてこの金額を設定したってわけではないということです。

【質問者 都政新報】

今も、その基金を活用しながらってことでよろしいですか。

【政策経営部長】

はい。

【質問者 都政新報】

ありがとうございます。

【やまだ区長】

この事業がずっと続いていくような形で、初年度は 300 万円、翌年が 200 万円、そして 3 年目が 150 万ということで、徐々に補助金額を調整しながら、活動がその先の活動につながっていくような連携ができればというふうに考えています。

【司会】

ありがとうございます。他にご質問はございますでしょうか。

【やまだ区長】

はい。ありがとうございます。

【質問者 建通新聞社】

建通新聞社のアサクラです。新一万札発行のカウントダウンプロジェクトの中の旧渋沢邸園の改修プロジェクトのクラウドファンディングが 6 月 3 日から受付開始ということですが、この改修プロジェクトの方のスケジュールなどを、もし決まっていれば、いつごろから改修を行う予定など、お伺いしてもいいですか。

【やまだ区長】

史跡案内看板の改修ということですね。

これ、今年度の改修計画ということでいいですよ。今年度改修していくような形で計画しています。作っていくような。

【質問者 建通新聞社】

何月ごろとかって、まだ決まってないですか。

【やまだ区長】

じゃあ、担当課長でお願いします。

【しごと連携担当課長】

そこについてはまだ決まっておらず、これから検討していくようなところです。

【質問者 建通新聞社】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。他にご質問はございますでしょうか。

【やまだ区長】

はい。どうぞ。

【質問者 東京新聞】

東京新聞のスズキと申します。私もちょっとクラウドファンディングの件で伺いたいんですけども、既に出てる話だったら恐縮なんですけど、この改修プロジェクトは看板をきれいにするっていうのは、何か新しいものをつくるっていうこと？

【やまだ区長】

今も、看板が出ているんですけども、ちょっとご案内として、もう少しきれいな、わかりやすいものにしていこうというところで、改修プロジェクトをつくりました。

【質問者 東京新聞】

表示内容を明確にするみたいな？

【やまだ区長】

はい、そうですね、もっとわかりやすくきれいなものにしていきたいというふうに思っております。今も看板としてはあるんですけども、それだけではなくて、きれいにしていきたいということと、わかりやすくしたいというところで、また、その内容については中で検討中であります。

【質問者 東京新聞】

これからご検討ですね。何か大きさとかもガラッと変わる？

【やまだ区長】

そうですね。はい。

【質問者 東京新聞】

例えば白黒がカラーになると、そういうのも。

【やまだ区長】

そうですね、その辺もやっぱり見やすくしていく。それから、いろいろな方々にわかりやすい、障害をお持ちの方を含めて、伝わりやすくしていく必要が、今の時代に合わせて必要かなという

考え方も持っています。

【質問者 東京新聞】

わかりました。ありがとうございます。目標金額って、おいくらなんでしたっけ。

【やまだ区長】

はい、300万円です。

【質問者 東京新聞】

はい。看板をきれいにする以外で、プロジェクトで何か取り組む、施設・設備面の整備とか、そういうことは、特にないでしょうか。

【やまだ区長】

今の段階では、このプロジェクトのみです。はい。まず第1弾ということで。

【質問者 東京新聞】

第1弾が看板で、第2弾、第3弾と続いていくようなイメージ？

【やまだ区長】

続けていけたらなと思ってます。これはまだ、内部的なこともまた調整できてませんので、すみません。

【質問者 東京新聞】

はい、わかりました。ありがとうございます。

今、映像を見せていただいたプロジェクションマッピングなんですけど、こちらでご予算はおいくらだったんでしょうか。

【やまだ区長】

220万円です。程度の見込みとなっています。

【質問者 東京新聞】

はい。一回が30分。まるまる30分フルで？

【やまだ区長】

10分から15分。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます。

【やまだ区長】

はい。

【質問者 朝日新聞】

朝日新聞のインダィラといいます。よろしくお願いします。

このプロジェクトマッピングの関係なんですが、ちょっと、「渋沢翁の晩餐会」というタイトルで、今の段階で差し支えなければ、どんなイメージの映像なのかっていうのを、ちょっとわかる範囲で。

【やまだ区長】

これ、ぜひお楽しみにしていただけると嬉しいなと思います。

やっぱり渋沢翁の様々な映像を流してきますが、これもぜひお楽しみがいいかと思います。で、ごめんなさい。先ほどの 220 万円なんですけども、プロジェクションマッピングの制作運営とともに、あと PV もそうですし、チラシなども作成していきます。それら全部含めた金額で、プロジェクションマッピング一つで 220 万ではなくて全体でそうですということも付け加えさせていただきます。

内容については、ぜひお越しただいて、ご取材いただけたらなと思います。お願いします。素敵に作っています。

【質問者 朝日新聞】

そうすると、プロジェクションマッピング自体は、いくらなんですか。東京都は 18 億で話題になりましたが。

【やまだ区長】

そうですね。

【しごと連携担当課長】

プロジェクションマッピングにつきましては 150 万程度というような形になっております。

【質問者 朝日新聞】

ありがとうございます。あと、もう一点あります。

ちょっと聞き漏らしました。すいません。作ったのが若手のデザイナーの方に作ってもらった

ってことですが、区内のどんな方が、どんな想いを込めて作られたか。

【やまだ区長】

はい。ご応募いただいた方の。所管でお願いします。

【しごと連携担当課長】

区内の若手クリエイターさんなんですが、HIRO LINK さんという方でして、これまでもいろいろなところでプロジェクションマッピングをやっていらっしゃる方です。

想いの部分につきましては、今回タイトルにもある通り、「渋沢翁の晩餐会」ということで、皆さんが晩餐会に参加されているような形の作品を作りたいと、というような形で聞いております。

【質問者 朝日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。他にご質問のある方は、いらっしゃいますか。

よろしいでしょうか。それでは区長、先ほどのご質問の答えをお願いします。

【やまだ区長】

はい、ありがとうございます。それぞれのイベント、ぜひご取材お願いしたいと思います。

それでは、先程ご質問いただきました知事選に関してであります。東京都知事選というのは、私たち 23 区、特別区、基礎自治体としてはとても大きな存在であります。特に区政運営の中では、大きな割合を占めておりますので、東京都との連携ということが大きなテーマです。

そういった意味では、どういった方が知事になれるかということは、私たちも大変注目しているところでありますし、様々な方々が、それぞれのご意思で立候補されるということは、どの選挙においても認められるべきではありますが、注目をしています。

ということが一点と、そして報道でも、いくつか出ておりますが、区長会の中でもいろんな議論、話題としては出ておりますので、そういったこれまでの都政との連携、取り組みということを視野に、議論がなされている。ということまでは、お話をさせていただきたいなと思っております。

大変重要な選挙であり、私たちとしてもしっかりと注目をし、考えていかなければいけないことだというふうに思っています。

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 都政新報】

すみません、都政新報社のドイです。

今の質問に関連して、小池知事が3選出馬される意向が濃厚だと思われるんですが、都議会議員もされてきた、やまだ区長からみて、この2期8年間をどう評価されていますか。

【やまだ区長】

そうですね、評価。やはり私、都議会に2期3年ではあったんですけども、その時の衝撃はまさに大きくて、東京都のスピード感というのがすごかったですね。区と比べてということは適切じゃないと思うんですが、とにかくDX進めるよ、ということになったら、かなりスピード感がありましたし、その進め方についてもきめ細かく対応していくというところは、やっぱりすごいなっていうのを実感した記憶があります。

また、区長の立場で、東京都との関わりを持たせていただく中では、今の東京都は、やはり、区市町村との連携ということをかなり重視して、我々、区や市の意見を吸い上げてもらっているということは感じています。私たちとしても、東京都と連携をしながら、区民、都民、市民の皆さんの幸せのための政策を作っていくということでは、対立ではなくて一緒にやっていく、というスタンスで考えておりますので、知事の政策も含めて、また職員の方々の熱心な、区との連携は、ありがたいなという部分も感じていました。

【質問者 都政新報】

ありがとうございます。区長会で3選出馬要請されるとのことなんですけど、やまだ区長としては、どうされるかっていうのは。

【やまだ区長】

今の段階で、要請をしていくってということまで決定していませんので。そういった議論がなされているということは確かです。

私も、もちろん、いろんな形で検討しているというのが現段階であります。やはり、とても重要な選挙だと思いますので、しっかりと考えていかなければいけないなと思っています。

【質問者 都政新報】

ありがとうございます。

すみません。あともう一点なんですけど、災害時とか感染症があった際に、国が地方自治体に指示できる地方自治法の改正案が審議されていると思います。改正案に関しては、分権に反するのではないかっていうことをおっしゃる首長さんもいらっしゃいます。やまだ区長のお考えをお聞かせください。

【やまだ区長】

やはり緊急対応が必要な際の考え方というのは、実際に、コロナの時も、これまでの東京都を通じた区への通知とかということが、実際には国から直接っていうことも多かったですね。

なので、むしろ、しっかりと枠組みが決まっていくということは、私は大切かなというふうに思っております。

その新しい法律の下で、それぞれの立場が何をどのようにやっていくのか、それを実際にどんな形で連携していくかということ、それぞれの立場での取り組みを今度は明確にしていく、そこが重要だと思っています。

なので、基礎自治体として国にしっかりと行っていくという部分は、その具体的な取り組みの中での必要な部分については、要望していきたいと思いますし、東京都との連携についても意見をしていきたいなというふうには思っています。

【司会】

他に、ご質問はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の定例記者会見、これにて終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

【やまだ区長】

どうもありがとうございました。